

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2008-43706

(P2008-43706A)

(43) 公開日 平成20年2月28日(2008.2.28)

(51) Int.Cl.

A 4 3 B 23/10 (2006.01)**A 4 3 B 23/22 (2006.01)**

F 1

A 4 3 B 23/10

A 4 3 B 23/22

テーマコード (参考)

4 F 0 5 0

審査請求 未請求 請求項の数 5 書面 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2006-247326 (P2006-247326)

(22) 出願日 平成18年8月16日 (2006.8.16)

(71) 出願人 506194623

濱口 恵保

埼玉県さいたま市北区吉野町一丁目365
の8

(72) 発明者 濱口 恵保

埼玉県さいたま市北区吉野町一丁目365
の8

Fターム(参考) 4F050 AA01 AA28 BA27 BA43 BF06

HA46 HA75 JA01 JA23

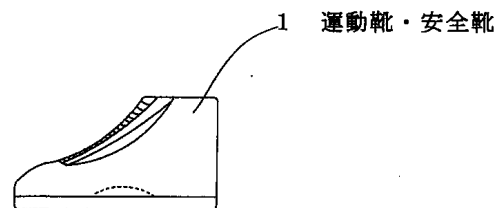
(54) 【発明の名称】 左右共用一般靴

(57) 【要約】

【課題】歩行用の靴または一般運動靴で、左右のない、安価で履き易く、脱ぎ易く、軽く、歩行に優れ、作業し易く、強度に優れた左右同一形状の靴及び一般運動靴を提供する。

【解決手段】 左右同一形状の靴で、緊急時、作業時、特に災害時に慌てず安全靴の左右をまようことなく、足裏の土踏まずの感触に違和感がなく履ける構造で、甲被の爪先部には先芯が内装され甲被が鋼板を覆い、底部に鋼板を敷き、底部内側に靴又は運動靴を履いたさいに足の土踏まずの形状に合うよう硬軟なゼリーが入った凸部を設けたことを特徴とする靴または一般運動靴。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

左右同一形状で、地震等の災害時用安全靴または運動靴。

【請求項 2】

左右同一形状で、履き易く、脱ぎ易く安全な災害時歩行用安全靴または運動靴。

【請求項 3】

左右同一形状の靴底、中底と上部の甲被からなり、上部甲被の先端部爪先部には先芯が内装され、鋼板で形成し足の先端を保護されている。中底を左右の足の土踏まずに合うように硬軟なゼリーが入った凸部を設けて、左右の足底の形状に合うよう硬軟なゼリーが入った凸部が移動することを特徴とする請求項 1 ~ 2 記載の災害時歩行用安全靴または運動靴。

10

【請求項 4】

請求項 1 において靴底の先端部から土踏まず部まで鋼板を敷き締め、災害時の落下物、各種破片、釘等を踏む事故から守る請求項 1 ~ 3 記載の災害時歩行用安全靴または運動靴。

【請求項 5】

中底の上に中敷を設けて、その中敷きに足の左右の土踏まず形状に合うような硬軟なゼリーが入った凸部が移動する方法でもよい請求項 1 ~ 2 記載の災害時歩行用安全靴または運動靴。

【発明の詳細な説明】

20

【技術分野】**【0001】**

本発明は、左右共用できる安全靴又は運動靴に関する。

【背景技術】**【0002】**

一般に安全靴は表底の上面に中底が積層されており、この表底と中底の間に周辺が挟まれた甲被が装着されている。そして、甲被の爪先部には先芯が内装されつま先を保護しているのが普通である。又、靴、又は安全靴、運動靴等は殆どが左右別々であり、左右を間違えて履くことは構造上無理であり、ましては歩くことは無理である。小さな子供は左右逆に履いて遊んでいることはあっても運動靴である。故に従来の安全靴、運動靴では歩行は出来ないし、製造もされていないのが現状である。

30

【特許文献 1】特許登録 3 1 9 3 0 9 6 公報（安全靴）

【特許文献 2】徳開兵 0 9 - 1 3 1 2 0 4 公報（災害時用安全靴）

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

それには次のような問題点があった。

（イ）左右共用で履ける安全靴、運動靴はない。

（ロ）地震等の災害時に慌てて左右逆に靴を履いてしまうことがあり、歩けなく、一瞬逃げ遅れることがある。

40

（ハ）必ず左右の安全靴、運動靴を確認しなければ履けない。

（ニ）左右共用のため履くのに、脱いだ靴も左右を神経を使わずすむ安全靴、運動靴はない。

本発明は、以上の問題点を解決するためのものである。

【課題を解決するための手段】**【0004】**

上記の問題点を達成するために、まず、安全靴、運動靴は左右同一形状な構造に製造し、安全靴、運動靴の上部甲被の先端部爪先部を保護する為にアーチ型の鋼製でできた先芯が内装され、中底の内側、足の土踏まず部に硬軟なゼリーが入った凸部を設ける。足を入れると、硬軟なゼリー状の物体が足の土踏まずの形状に合わせて、左右に移動して土踏ま

50

ずの部分を支え左右どちらの靴を履いても違和感がない構造にする。そして、安全靴、運動靴の底部には足の爪先から土踏までの部分まで鋼製の板を敷き、災害時のガラス等の落下部、破片、危険物、釘等の事故から足底を守る。また、安全靴、運動靴の上底に直接、硬軟なゼリーが入った凸部に接着しなくても、中敷に硬軟なゼリーが入った凸部を接着して靴の中に挿入しても良い。

【発明の効果】

【0005】

左右同一の形状の安全靴、運動靴で、その中底の硬軟なゼリーが入った凸部が左右に移動する事で足の土踏まずの形状に合うようになり、履きやすく、脱ぎ易く、違和感がなく歩行でき、又緊急時、地震等の災害時に迷わず瞬時に安全靴、運動靴を履ける効果ある。

10

【発明を実施するための最良の形態】

【0006】

以下、本発明の実施の形態を説明する。

(イ)安全靴、運動靴の靴底の内側に、爪先の先端部の足の土踏まずの後ろまで鋼製の板を設け、災害時のガラスの破片、釘等から足底を守る。

(ロ)中底の内側底部、足の土踏まず部に盛り上がった楕円形状の硬軟のゼリーが入った凸部を設けて、ゼリーの移動により左右の足の土踏まずと合わせ、左右同一形状の安全靴、運動靴が違和感なく履けるようにした。

(ハ)安全靴、運動靴の上部甲被の先端部爪先には先芯が内装され、鋼製で形成し足の先端部を保護して、災害時の落下物から足先を守っている。

20

(ニ)上記により、左右同一形状の安全靴、運動靴であるが、どちらを履いても履き易く、歩行時に、どちらを履いても違和感がなく、緊急時には瞬時に履けるような構造にした。

本発明は、以上の構成よりなっている。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】本発明の安全靴、運動靴の外観図

【図2】本発明の安全靴、運動靴の断面図

【図3】本発明の安全靴、運動靴の平面図

【図4】本発明の底部内側凸部の平面図

30

【図5】本発明の中敷に硬軟なゼリーが入った凸部を設けた平面図。

【図6】本発明の中敷の硬軟なゼリーが入った凸部を設けた側面図

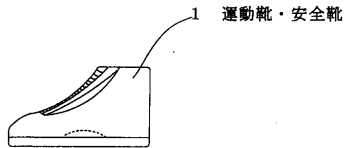
【符号の説明】

【0008】

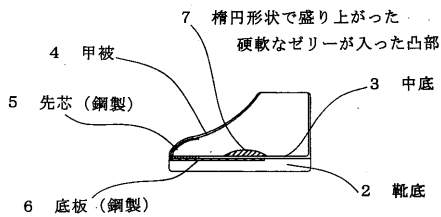
- 1 運動靴・安全靴
- 2 靴底
- 3 中底
- 4 甲被
- 5 先芯（鋼製）
- 6 底板（鋼製）
- 7 楕円形状で盛り上がった硬軟なゼリーが入った凸部
- 8 中敷

40

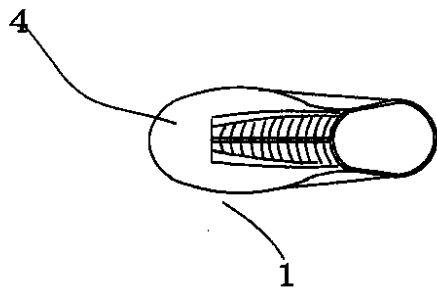
【図 1】



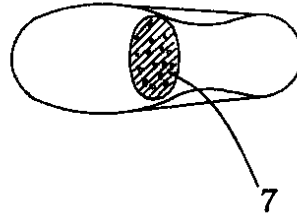
【図 2】



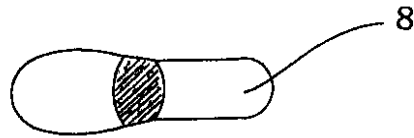
【図 3】



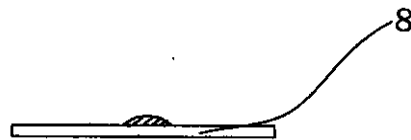
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【手続補正書】

【提出日】平成18年12月20日(2006.12.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、左右共用できる靴又は一般運動靴に関する。

【背景技術】

【0002】

一般に安全靴は表底の上面に中底が積層されており、この表底と中底の間に周辺が挟まれた甲被が装着されている。そして、甲被の爪先部には先芯が内装されつま先を保護しているのが普通である。又、靴、一般運動靴等は殆どが左右別々であり、左右を間違えて履くことは構造上無理であり、ましては歩くことは無理である。小さな子供は左右逆に履いて遊んでいることはあっても運動靴である。故に従来の靴、一般運動靴では歩行は出来ないし、製造もされていないのが現状である。

【特許文献 1】特許登録 3 1 9 3 0 9 6 公報

【特許文献 2】徳開兵 0 9 - 1 3 1 2 0 4 公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

それには次のような問題点があった。

(イ) 左右共用で履ける靴、一般運動靴はない。

(ロ) 慌てたとき、災害時に慌てて左右逆に靴を履いてしまうことがあり、歩けなく、一瞬逃げ遅れることがある。

(ハ) 必ず左右の靴、一般運動靴を確認しなければ履けない。

(ニ) 左右共用のため履くのに、脱いだ靴も左右を神経を使わずすむ靴、一般運動靴はない。

本発明は、以上の問題点を解決するためのものである。

【課題を解決するための手段】

【0004】

上記の問題点を達成するために、まず、安全靴、運動靴は左右同一形状な構造に製造し、靴、一般運動靴の上部甲被の先端部爪先部を保護する為にアーチ型の鋼製でできた先芯が内装され、中底の内側、足の土踏まず部に硬軟なゼリーが入った凸部を設ける。足を入れると、硬軟なゼリー状の物体が足の土踏まずの形状に合わせて、左右に移動して土踏まずの部分を支え左右どちらの靴を履いても違和感がない構造にする。そして靴、一般運動靴の底部には足の爪先から土踏までの部分まで鋼製の板を敷き、歩行、作業、災害時のガラス等の落下部、破片、危険物、釘等の事故から足底を守る。また、靴、一般運動靴の上底に直接、硬軟なゼリーが入った凸部に接着しなくても、中敷に硬軟なゼリーが入った凸部を接着して靴の中に挿入しても良い。

【発明の効果】

【0005】

左右同一の形状の靴、一般運動靴で、その中底の硬軟なゼリーが入った凸部が左右に移動する事で足の土踏まずの形状に合うようになり、履きやすく、脱ぎ易く、違和感がなく歩行でき、歩行、作業、又緊急時、地震等の災害時に迷わず瞬時に安全靴、運動靴を履ける効果ある。

【発明を実施するための最良の形態】

【0006】

以下、本発明の実施の形態を説明する。

(イ) 靴、一般運動靴の靴底の内側に、爪先の先端部の足の土踏まずの後ろまで鋼製の板を設け、歩行、作業、特に災害時のガラスの破片、釘等から足底を守る。

(ロ) 中底の内側底部、足の土踏まず部に盛り上がった楕円形状の硬軟のゼリーが入った凸部を設けて、ゼリーの移動により左右の足の土踏まずと合わせ、左右同一形状の靴、一般運動靴が違和感なく履けるようにした。

(ハ) 安全靴、運動靴の上部甲被の先端部爪先には先芯が内装され、鋼製で形成し足の先端部を保護して、歩行時、作業時、災害時等に落下物から足先を守っている。

(ニ) 上記により、左右同一形状の靴、一般運動靴であるが、どちらを履いても履き易く、歩行時に、どちらを履いても違和感がなく、緊急時には瞬時に履けるような構造にした。

本発明は、以上の構成よりなっている。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】本発明の靴、一般運動靴の外観図

【図2】本発明の靴、一般運動靴の断面図

【図3】本発明の靴、一般運動靴の平面図

【図4】本発明の底部内側凸部の平面図

【図5】本発明の中敷に硬軟なゼリーが入った凸部を設けた平面図。

【図6】本発明の中敷の硬軟なゼリーが入った凸部を設けた側面図

【符号の説明】

【0008】

1 靴・一般運動靴

2 靴底

- 3 中底
- 4 甲被
- 5 先芯（鋼製）
- 6 底板（鋼製）
- 7 楕円形状で盛り上がった硬軟なゼリーが入った凸部
- 8 中敷

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

左右同一形状な靴または一般運動靴。

【請求項 2】

左右同一形状で、履き易く、脱ぎ易く安全な歩行用靴または一般運動靴。

【請求項 3】

左右同一形状の靴底、中底と上部の甲被からなり、上部甲被の先端部爪先部には先芯が内装され、鋼板で形成し足の先端を保護されている。中底を左右の足の土踏まずに合うように硬軟なゼリーが入った凸部を設けて、左右の足底の形状に合うよう硬軟なゼリーが入った凸部が移動することを特徴とする請求項 1～2 記載の歩行用靴または一般運動靴。

【請求項 4】

請求項 1 において靴底の先端部から土踏まず部まで鋼板を敷き締め、災害時の落下物、各種破片、釘等を踏む事故から守る請求項 1～3 記載の歩行用靴または一般運動靴。

【請求項 5】

中底の上に中敷を設けて、その中敷きに足の左右の土踏まず形状に合うような硬軟なゼリーが入った凸部が移動する方法でもよい請求項 1～2 記載の歩行用靴または一般運動靴。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1】

1. 靴・一般運動靴

